

初春に私の

年男

虫生

深田 正一



新年明けまして、お目出とうございます。

私の様な一農業者に新春の抱負をと依頼され、ただ戸惑うばかりで恐縮の思いであります。

私は、昭和二十一年イヌ歳の生まれで、十二年前のエトには希望に燃える結婚の船出をし、以来、順風満帆、快走する日々

ばかりでは有りませんでした、日々是好日と思ひ家族と協力、友人とは飲んで語って励げまし

合ひ、昨年の暮れには、新居も完成し、また、この十二年の間に二人の娘にも恵まれました。

今年から新たに、次のイヌ歳の来るのを節目とし希望の持てる農業を方向づけて、娘に良き結婚相手が見つかる事を目標におき激しく変動すると思われ

る農業政策や、農業経済の低迷等に対応すべく水稻を中心に野菜と畜産の有機農業を営み、農産物の新たな販売の方向等にも意欲をもって取り組んで行きたいと想いをさせる初春であります。

尾 垂

伊藤 弘子



昨年までは、時が目の前を流れて行くような感じで、無造作に過ごしてきた事を恥ずかし、また、情なく思い、今年こそは、充実した日々を過ごそうと思いを新たにしました。

容姿は年々衰えて覆い隠す事

はできませんが、心だけは若さを失いたくないと思ひます。

そのためにも、余暇をつくりだして自分に合った趣味や生きがいの感じられる何かを見つけて実行したいと思ひます。

今までは、いざ実行という段階でちゅうちょしてしまい、机上案に終わってしまいましたが、今年には是非実現させたいと思ひます。

また、毎日、家庭にいるようなものの、子供たちと話し合う時間が思うようありませんでしたが、できるだけ子供と接して、子供の心を良く理解し、それぞれ持っている良い点を探して、その芽を伸ばしてやれたらと願っています。

さらに、家族の健康管理にも留意したいと思ひます。

篠 本

青柳 祐美子



二十四年、人生の約三分の一。一生からみれば、まだまだ若輩の身。すべてを与えられた社会の中で、何不自由なく生活し

ている。

自分自身、相手、取りまく人々、他人……世の中で多くの人々との間で自分一人の存在、それはあまりにも小さなものです。

平和な中で育った私たちは、すぐ逃避する事を考えがちです。世の中の大きさに圧倒されてしまふからです。でも、私は広い社会の中で見つけられない様な存在でも、それなりの価値があると思ひます。

ですから、毎日起きる様々な出来事に対して(たとえば家庭の中に入ったとしても)逃腰にならなくては、新たな発見をし、それを一つの糧とする。

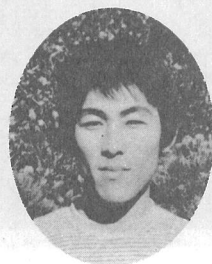
どのような状態にあっても、幾つになろうと何事にも真剣に取りくむ、そして、純粹に立ち向かっていける精神を養って行く努力が必要だと思ひます。

一九八二年、えとを迎えて自分自身を見つめ直す目を持ちたいと思ひます。



桑 郷

斉藤 正憲



戊年、今年は、学生という身分を卒業し、社会人一年生となる年である。これからは、学生時代のように親のすねをかじり、学生という身分に甘えてはいられなくなってしまう。

社会的には、二十歳で大人の仲間入りだが自分としては、今年からが本当の大人の仲間入りと考えている。

そして、卒業後は家に戻り農業を継ぐことになっているので農業を営む。といっても、まだ両親から色々と学ばなければならぬ。

これからの農業は増々機械化されると思うので、耕地をいかに有効に利用するかを考えたい。また、政府の農業政策も厳しいものであるが農業に誇りを持ち一生懸命がん張っていきいたいと思う。